

# 北海道地域福祉学会ニュース NO.19

2003年10月10日発行 / 編集 北海道地域福祉学会事務局

## 第10回大会・総会報告

7月13日(日)、北星学園大学において、2003年度北海道地域福祉学会第10回大会が開催されました。

日曜日にも関わらず62名の参加者を得て、「地域福祉時代の小規模サービスの展開を考える」をテーマに基調講演とシンポジウムを行いました。

基調講演をされた東北福祉大学教授、高橋誠一氏は、医療と福祉の包括された仕組みを地域で作り、在宅を支える必要性を説きながら、今後の市町村合併に伴い、政治圏とは別に小規模の生活圏を明確にしていくべきだと話されました。また、高齢者や障害者など対象を絞らない共生型の小規模ケアや、盲やろう等障害の種別をなくし、一つの学校で様々な障害を受け入れられる体制など、今後、縦割りな福祉を変えていくべきとではないかと提起されました。

また、それらを地域がうまく受け入れる仕組みが重要であると語られました。

シンポジウムでは大内・白戸理事の司会進行の元、高齢者施設、障害者施設、在宅、環境の立場から4名の報告者から実践報告を受けました。

幸豊ハイツ施設長大久保幸積氏は、尊厳を支えるケアを確立しながら、施設機能を積極的に地域へ展開していきたいと話され、札幌この実会センター24施設長の山崎千恵美氏は、障害者が普通に暮らしたいという思いをかたちにしてきた実践の中から、与えられた生活ではなく自立した生活をもっと身近な地域で実現していきたいと思いを語られました。

またホームヘルパーノア事務局長の澤出桃姫子氏は、住宅街で、地域の高齢者が自由に、その人の合った時間でのケアを提供している実践を報告しました。

北海道情報大学の助教授隼田尚彦氏は人間の

行動と環境の関わりという視点から、グループホームの小規模であるメリットとデメリットを指摘し、共同生活を送りながら、各自が思い思いの生活が送れる環境作りや、居室間違いや問題行動が軽減される空間をつくることのできる可能性を示唆し、選択性のある共有空間が重要であると話されました。

ユニットケア、グループホーム、サテライト等の新しい地域サービスが、実践の中から展開され、今後の地域のまちづくりの核として、多くの人を多く巻き込んで、広がることで、その人らしい生活を支えていける社会づくりを目指していくことが大切だと強調されました。

総会では、尾形良子会員が議長を務め、2002年度事業報告・収支決算について事務局より報告し、乾匡子監事から、監査が適正に行われたことが報告されました。2003年度事業計画・収支予算についても原案のとおり出席会員の過半数をもって承認されました。また、今回の総会では規約の改正及び理事の補選が行われました。規約の改正内容は事務局長を理事より選出していたのを、広く会員と改正し、理事の補選については、清水博会員(道社協)が選ばれました。これらについても出席会員の3分の2の同意をもって承認されました。

また、規約の改正が承認されたことにより、会長が新しい事務局長に村田正義会員(道社協)を指名し決定しました。

欠席された会員の方には、議案書を同送させていただきますので、ご査収ください。

## 全道地域福祉推進セミナーご案内

北海道社会福祉協議会主催の全道地域福祉推進セミナーが10月27日(月)に次頁の要綱のとおり開催されます。本学会としても共催いたしますので、参加を希望される方は別紙用紙にてお申し込み下さい。

## 第2回定例研究会報告

『痴呆性高齢者グループホームを検証する』をテーマに8月27日に行われた第2回定例研究会は、定員を大幅に越える64名の参加がありました。

グループホームアウルの施設長宮崎直人氏は、グループホームは介護保険に組み込まれた制度で、守られたサービスであるといえるがサービスの質の向上を目指し、それをいかに継続していくのが今後の課題であると話されました。

「一人になりたいけれど人のいる気配が感じられる」空間づくりや癒してくれる物との関係や、家族、一緒に生活する人、スタッフ、外部との関係を大切に、安心した暮らしを提供している様子が映像を通して説明されました。

第三者評価についても話され、評価を批判と捉えるのではなく、どう活かせるか、どのように変えられるかが重要で、積極的に行うべきだと強調されました。

## 地域福祉実践セミナー開催される

本会が共催しました、特定非営利活動法人日本地域福祉研究所主催の第9回地域福祉実践研究会が9月4～6日の3日間にわたり参加者154名と共に盛大に開催されました。

1日目のシンポジウムでは、日本地域福祉研究所の理事長でもあり、日本地域福祉学会会長の大橋謙策氏がコーディネーターを務める中、「介護保険、支援費下におけるコミュニティソーシャルワーク」をテーマに、行政、施設、社協、利用者の立場の4名から釧路の福祉の現状や実践報告をされました。

また、それぞれの立場で、釧路市民が抱える生活問題の把握の方法、生活課題の改善、サービスの開拓、地域の支え合いを含めたソーシャルサポートの取り組みについて議論がされました。

釧路市の箴井氏は申請式の介護保険で、一番問題なのは利用していない方のニーズが聞き取れていないと指摘し、全高齢者9千人を対象にニーズ調査を始め、ニーズの発掘をし、サービスを開拓していきたいと話されました。

伊東釧路市長を囲んだ鼎談では、日本地域福祉研究所客員研究員、上野谷加代子氏の進行の元、NPO法人、ヘルパーとして関わる二人の女性が元

気に活動している理由、今後の展望について話がされた。NPO法人わたぼうしの家の佐々木氏は活動を通して、寄り添って共にいてくれる人がいるのなら、自分が痴呆になってもいいと思うようになり、価値観が変わった。しかし、各機関とも連携をとり、つながっていかねばならないが、必要に迫られないとなかなか難しいと語りました。伊東市長は、これからは高齢者だけでなく、子どもに対しても目を向けて、地域全体で子どもを育成していける環境を作っていくことが釧路の未来へつながると強調されました。

2日目のワークショップでは、8つの分科会に分かれ、2名ずつ置かれたアドバイザーを中心に、それぞれのテーマに沿って、事例検討や演習を通して課題をまとめました。ポスターセッション方式で進められた全体発表では、各グループが模造紙に工夫をしたり、ロールプレイを行うなど、他の参加者へ分かりやすい形で発表を行い、評価を受けました。

3日目はワークショップのテーマごとにアドバイザーから個別にコンサルテーションを受ける時間が設けられ、困難な事例に対する助言や、実践での課題についてのアドバイスをされました。

なお、来年の第10回地域福祉実践セミナーの開催地は宮崎県都城市になりました。今回、参加できなかった方もぜひご参加下さい。

## 事務局よりお知らせ

### 掲載記事について

学会ニュースに掲載する記事を随時募集しています。また、北海道地域福祉学会活動についてご意見、定例研究会のテーマ・報告者等ご希望がありましたらぜひお聞かせください。

### ～北海道地域福祉学会事務局～

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会  
総務部 企画情報課（担当：名畑）  
〒060 0002  
北海道札幌市中央区北2条西7丁目  
道立社会福祉総合センター内  
tel (011)241 3976  
fax (011)271-1977  
E-mail tob01a01@wamnet.wam.go.jp

# 平成15年度 全道地域福祉推進セミナー開催要綱

## テーマ 「地域福祉推進の新たなすがたについて考える

### ～自治とコミュニティの再編に向けて～

#### 1. 開催趣旨

社会福祉法において新たに福祉の理念として規定された「地域福祉の推進」を目的とし、それぞれの地域で誰もが安心して生活できる「福祉のまちづくり」をすすめるための方向性を示すものとして、市町村においては行政計画である市町村地域福祉計画、社協においては民間の活動・行動計画である第3期地域福祉実践計画の策定が本格的に取り組まれてきています。

これらの計画は同じ市町村の地域福祉推進を目指す点において、互いに補完・補強しあう関係にあります。このため、策定にあたっては相互に連携・役割分担をしながら一体的にすすめられることが必要であり、また様々な関係機関及び地域住民の参加や協働により策定・実施されることが求められます。

一方、道内でも合併に向けた具体的な動きが本格化してきています。合併による広域的なまちづくりを進めるにあたっては、環境、財政等様々な問題について協議されていますが、福祉の分野では特に地域に根ざした福祉活動をいかに新しい地域のまちづくりの中に反映させていくかが課題となっています。市町村地域福祉計画や地域福祉実践計画の策定を推進し、生活に密着した現時点の地域で地域福祉推進に取り組むことによって、合併後も地域性を生かした地域福祉推進を目指すことができると考えられます。地域住民一人ひとりの生活課題に地域全体で取り組むための方向性を示すものとして、両計画の策定は市町村合併の有無に関わらず積極的に検討することが重要となります。

そこで本セミナーでは、これらの現状を踏まえ、市町村地域福祉計画及び第3期地域福祉実践計画の意義と計画策定を通じた行政・社協の役割を再確認するとともに、市町村合併に向けた課題への対応として地域福祉を軸に住民自治の向上を図る視点から、これからの自治とコミュニティの新たなあり方について研究協議します。

2. 主催 北海道社会福祉協議会

3. 共催 北海道地域福祉学会

4. 後援 北海道（予定）  
北海道市長会（予定）  
北海道町村会（予定）

5. 日程 平成15年10月27日（月）

6. 会場 道民活動センター 1階 かでるホール  
（札幌市中央区北2条西7丁目かでる2・7内）

7. 参加対象 市町村関係職員 / 道内市町村社協会長等役職員 / ボランティア関係者 / 関係団体

8. 参加定員 350名

9. 参加費用 参加費3,000円

#### 10. 日程

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
	受付	開会	基調説明	講演	休憩	シンポジウム	特別講演	

## 11. 内 容

1) 開会 (10:00~10:30)

2) 基調説明 「地域福祉推進の新たなすがたについて考える

～自治とコミュニティの再編にむけて～」(10:30~11:00)

説明 北星学園大学 教授 杉岡 直人 氏(北海道地域福祉学会会長)

平成 15 年度から市町村と社協で策定作業が本格化している市町村地域福祉計画と第 3 期地域福祉実践計画の意義や考え方、また、市町村合併を踏まえたこれからの地域福祉推進の考え方について触れながら、本セミナーの趣旨について説明します。

3) 講演 「市町村地域福祉計画策定と地域社会の活性化」(11:00~12:30)

講師 松本大学 助教授 白戸 洋 氏

平成 15 年度より市町村地域福祉計画関係法文が施行されましたが、市町村合併の動きなども影響し、計画策定に向けての対応は各自治体で温度差があるようです。しかし、地域福祉推進を軸とし市町村地域福祉計画をいち早く検討、策定し、住民参加によるまちづくりに積極的に取り組んでいる自治体も増えつつあります。

そこで、そうしたまちづくりに実際に市町村地域福祉計画策定作業を通して関わった講師の方をお招きし、これからのまちづくりに求められる視点、社協と行政とのパートナーシップをどのように構築するのかを考えます。

4) シンポジウム「計画策定の実際とこれからの福祉のまちづくり」(13:45~15:15)

助言者 松本大学 助教授 白戸 洋 氏

シンポジスト 美唄市保健福祉部 福祉課長 安田 昌彰 氏

三笠市社会福祉協議会 事務局長 星野 直義 氏

ホームページココキチねっと 主宰 中谷 通恵 氏

コーディネーター 北星学園大学 教授 杉岡 直人 氏(北海道地域福祉学会会長)

実際の計画策定現場の報告を通して、計画策定上の課題、策定作業を通じた効果等について協議し、福祉のまちづくりをすすめるための方向性と取り組みについて探ります。

5) 特別講演 「新しい地域コミュニティづくりの発想～市町村合併を踏まえて～」(15:30~17:00)

講師 北海学園大学 教授 横山 純一 氏

平成 17 年 3 月にむけ、北海道でも市町村合併の動きが本格化しています。広域的なまちづくりと効率的な行財政運営を行うことで、行政サービスの維持向上を図ろうという主旨で活発化している合併ですが、実際に合併協議をすすめる中では、公共施設までの距離の問題、財政状況の格差や発展の地域格差の解消、新たな地域での地域福祉の推進のあり方などさまざまな問題が山積しています。

ここでは、市町村合併へ向けた課題への対応として、地域福祉の推進を軸に住民自治の向上を図るための方策について探り、新たな自治とコミュニティのあり方について考えます。

## 12. 参加申し込みについて

別紙参加申込書に必要事項をご記入の上、平成15年10月17日(金)までに下記あてに、FAXにてお申し込みください。

北海道社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉課(担当: 亀川・高橋)

〒060-0002

札幌市中央区北 2 条西 7 丁目道立社会福祉総合センター 3 階

011-241-3976 Fax011-271-0459

## 13. 昼食について

本セミナー会場は飲食が禁止となっておりますので、お弁当の斡旋は行いません。恐れ入りますが、昼食につきましては各自近隣のレストラン等をご利用いただきますようお願いいたします。